

ああ担いて往かん

●挨拶・返事 ●言葉遣い ●身だしなみ ●笑顔 ●感謝 文責 大森 朗輝

先生方が見たいもの～ ～生徒の本気になった顔と、その後の笑顔～

先生方が考えていることは、皆さんをどのようにして「本気」にさせるかということです。

検定試験は合格点に達すれば全員が無条件に合格となります。定員が決まっている大学受験や就職試験の内定を勝ち取るためには、自分の努力以上に努力をしてきた人がいた場合、必ずしも望んだ結果となるとは限りません。このあたりは部活動の大会や、各種コンクールなどと近いものがあります。そのためライバルに負けないように、意地とプライドを持って努力をします。

この時期は、グラウンドや体育館に行くと本気を出した運動部の三年生の姿を多く見かけることができます。必ず勝てるなどという保証はないに関わらず、「一緒に頑張ってきた仲間と少しでも長く一緒に試合がしたい」との想いから、無心で頑張ります。まさに「本気」になる瞬間です。本気になった時の顔は美しいものです。その顔を応援したいと先生方は思っています。

話を検定試験に戻します。皆さんたちが「本気」になったら合格できない検定試験はありません。本気を出したつもりで合格できなかったとした

ら、それはまだ本当の「本気」ではなかったということです。

私たち先生方も「本気」になります。検定試験では教えた生徒を絶対に合格させたいからです。皆さんも絶対に合格したいと思えば、私たちと同じ気持ちなので、なんとも思わないのに、先生方より本気度が足りない生徒は先生方の本気度に負けて「あの先生は怖い」と言います。

逆に、皆さんの本気度より、私たちの本気度が足りなければ、「あの先生は優しい」となるのでしょうか？ また、あなたたちの進路を決定する際も、私たちの本気度がそんな程度で良いでしょうか？ 良くないですよ。

私たちが見たいもの。それは生徒が本気になった顔と、努力の結果が形となった時の「笑顔」です。決して「苦笑い」とか「へらへら笑顔」ではなく、『合格』『内定』『勝利』などの満面の笑みが見たいのです。

私たち国際流通科の先生方(千歳高校の先生方)と本気になってみませんか？

そして最後には一緒に笑顔になりましょう。

珠算・電卓実務検定まで1ヶ月切りました！

一年生にとっては、高校生活で初めての検定試験となります。2級の受験となります。何事もスタートが肝心！全員合格を目指してしっかり準備してください。2級合格の先には1級が待っています。検定試験では合格ラインを目指すのではなく、完璧に2級範囲を理解するために100点を目指しましょう。失敗する人の例として、「なんとかなるさ」とか「まだ大丈夫」という気の緩みがあります。早めに試験の内容をマスターして余裕を持って受験しましょう。

二年生にとっても、1級への挑戦という意味では、「初」となります。まずはこれで『一冠』を達成してしまいましょう。ビジネス計算はさすがに1級だけあって、易しくはないですが、それだけに取得したら価値があるといえます。昨年度卒業した『三冠(以上)達成者』は全員この資格を卒業までにはGETしていました。また、二年生はその翌週の簿記実務検定も重要ですので、本気で取り組むこと。

三年生は言うまでもありませんが、進路にも大きく関わってきますので、これから受験する検定試験に対しては万全な準備を…。



国際流通科 注目の授業 ジェアネット先生 (ビジネス実務)

国際流通科における「国際」の部分では、『外国語教育の充実』という看板を掲げています。その多くの部分を担っているのがジェアネット先生によるビジネス実務の授業です。ビジネス実務は2年生と3年生でそれぞれ2単位で実施しており、半分を英会話の授業、もう半分をオフィス実務と分けています。つまり毎週1時間はネイティブスピーカーの先生との英会話の授業が受けられるということです。



もし、自分で英会話スクールに自費で通ったとしたら、いくらぐらいの費用がかかるでしょうか？(皆さんたちは2・3年の授業で約70回位のレッスンを受けられるとして考えてください。)かなり「得」をしていると言えますよね。ついでに言うておくと、皆さんが生まれる前からジェアネット先生は千歳高校で授業をしてくださっています。つまり何年も前の生徒さんたちと今の皆さんたちを客観的に比較できるということです。

ジェアネット先生は、この春四月の職員室での挨拶で「かわいい生徒たちで授業に来るのがとても楽しい」と言ってくださっていました。

しかし「今の〇年生はちょっと子供くさいですね」などのように私たちに感じたことを言うて頂けることもあります。さて、今年の皆さんたちは過去の多くの世代の先輩たちと比べてどのように見られているのでしょうか？「かわいくて素敵な生徒たち」と言われたいものです。

なお、国際流通科は、国際教養科とともに第二外国語として「ハングル」や「中国語」を学ぶ機会もあります。内容は基礎的なものになりますが、いずれもネイティブスピーカーの先生による授業です。



あっという間の二週間…

札幌学院大学から、教科「商業」で教育実習に来ていた「藤原穂香」先生ですが、21日(月)で教育実習期間終了となります。主に1年生の簿記で授業実習をしました。藤原先生は本校の卒業生ではない分、多くの苦勞もしたと思いますが、生徒のために頑張りたいという気持ちで教壇に立っておりました。短い期間なので、直接いろいろお話をしてみたいと思っていた生徒もいたでしょうがそんな時間もなさそうなので、インタビュー形式でいろいろ聞いてみました。

A.1 高校時代の恩師が、進路をなかなか決められなかった私に対して、親身になって接して頂きました。その時に、「この先生みたいになりたい」と思ったことがきっかけです。

A.2 教えてたことを「理解してくれた」ことが喜びです。反対に上手く教えられないときにどう工夫するかが難しいです。

A.3 生徒の味方であり続けられる先生になりたいです。ダメなときはダメ、悩んでいるときは助けてあげられる、メリハリのある先生が理想です。

A.4 いろいろな考えを持っている人がいて刺激になります。高校と違って担任の先生はいないので、自分で自分を律することが必要になります。ポーっとしていたら置いて行かれるので注意が必要です。基本的にはとても楽しいです。

Q.1 「教職課程」を目指したきっかけは何ですか？

Q.2 「教える」ことの楽しさと、難しさについて聞かせてください。

Q.3 将来は、どんな「先生」になりたいですか？

Q.4 「大学生活」ってどんな感じですか？

お忙しい中インタビューにご協力頂き、ありがとうございました。